

緑風だより

第97号

令和6年8月20日発行



発行 障害者支援施設 さがみ緑風園

〒252 - 0328 相模原市南区麻溝台2 - 4 - 18

TEL042 - 766 - 2255 URL www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/

発行者 弘末竜久



地域移行～県営住宅や身体障害者対応グループホームを見学して

Fさんは、緑風園で25年近くを過ごされ、これまでは園内での生活が基本となっていました。昨年から生活介護事業所に通所を始めたことで、園外での生活も楽しんでいる様子が見られています。そこで、さらに、当園以外での生活のイメージを作るため、先日、県営住宅とグループホームの見学に行ってきました。

Fさんには「たくさんお外に行きたい」「自由に好きなことをしたい」「デパートに行きたい」等、理想の生活でやりたいことがたくさんあります。ただ、施設での生活が長かったため、地域で実際にどのような生活ができるのか想像することは難しい様子でした。今回、県営住宅とグループホームを見学することで「アパート(県営住宅)は扉がなかったけど、庭があって良かった」「グループホームは台所があって、そこで作ったご飯を食べるのがいい」「炊飯器があって良かった。配膳してみたいと思った。」「洗濯を自分でしたい」等、感想を語り、それぞれの住まいを比較して具体的な生活のイメージを膨らませています。

見学後、悩んだ末、本人のイメージと合った住まいは“アパート”でしたが、1人暮らしに対する不安や環境面などの理由から「1年後にグループホームに行く」と自分で目標を立てています。

通所や見学を通して“こんなこともできるんだ！”“こんな楽しいことがあるんだ！”といったことを実感し、さらなる可能性にチャレンジする意欲に繋がっています。今後も見学や体験利用を行い、本人の希望する生活の実現に向けて動いていきます！ (生活第二課8ホーム 相沢香奈江)



Yさんは、2009年に当園に入所されて以降、約15年間、生活の大半を自室で過ごされてきました。唯一の楽しみである録画番組の視聴も職員が操作を代行していましたが、コミュニケーション手段として使用していた福祉機器の活用方法を工夫したことで、今では、録画の予約から視聴までご自身で操作できるようになり、以前より多くの番組を録画して楽しまれています。また、日中活動のe-スポーツへの参加や、福祉サービスを利用して美容院へ散髪に出かけるなど、ご本人の楽しめる活動をきっかけに自室から出る機会が増え、生活の幅が大きく広がっています。

生活の幅が広がったことにより、将来の生活の場の候補も広がりました。これまでは、施設での生活を希望されていましたが、地域で生活することも視野に入れ県営住宅の見学に行くことになりました。身障者向けの県営住宅は、入り口から住宅内まで段差はなく、車椅子の方が生活できる造りになっていました。見学当日には「ベッドはここですか？」「それならテレビはこっちですか？」と話しながら、職員と一緒に生活のイメージを膨らませました。見学後に感想を尋ねると『実際に見ることができてよかった』『まだ決められないが、移行先は実際に自分で見て決めたい』と仰っていました。



これからも、福祉機器や福祉サービスの活用により当園での充実した生活を送りながら、移行先の見学を進め、どこでどのような生活がしたいかを『実際に見て体験しながら』一緒に考えていきます。(生活第二課7ホーム 生沼勇樹)

eeyesで家族に手紙を書きました

当園ではコミュニケーション支援の拡大のため令和5年12月に意思伝達装置eeyes(イーアイズ)を購入しました。これは、話すことが難しい方でも、視線や指などを使って伝えたい言葉などを入力し、自分の意思を示すことができる装置です。

利用者のKさんは多くの言葉を知っており、話を組み立てる力がありますが、身体の麻痺により、口がうまく動かず、言葉でのコミュニケーションに難しさがあります。Kさんにeeyesを紹介したところ、何事にもチャレンジする意欲のあるKさんは装置に興味を示し、積極的に試行に取り組んでくれました。ある日、入力した文字が印刷できることを知ったKさんから「遠方に住んでいて、しばらく会っていない兄に手紙を書きたい」と希望がありました。一週間の中でeeyesを行える日をKさんと話し合い、少しずつ文字を入力していきました。手紙を書きたいと希望した日から約3カ月、8時間30分かけて250文字程の手紙を作成し、お兄様に送ることができました。後日、手紙が届いたお兄様から連絡があり、なんと面会に来てくださることになりました。7月7日、約5年振りに兄妹での時間を過ごすことができ、Kさんはとても喜んでいました。今回の出来事でKさんが作成した手紙によって家族の気持ちを動かしたこと、利用者本人が伝える言葉の重みを強く感じました。現在Kさんは通所されている生活介護事業所で使用する自己紹介文を作成しています。また、自己紹介文が完成したら、次は友人に手紙を出したいと言い、ますますeeyesに取り組む意欲が高まっています。

今後もeeyes等の意思伝達装置も含め、様々な方法により利用者の皆さんのコミュニケーション支援に取り組んでいきます。

(地域支援課 小野沢悟)



日中活動で個別支援を始めました！

6月より、平日の日中活動の時間帯に、ホーム職員と地域支援課活動支援班職員が協力して、利用者お一人お一人の「やりたいこと」を実現するための個別支援を開始しました。まず、ご本人、ホーム職員、地域支援課職員で話し合いの機会を持ち意向を伺います。コミュニケーションが難しい方については、その方の人となりや生活歴などから、ご本人が望んでいること、どんなことに興味をお持ちかなどを話し合います。ご家族にカツカレーを作っていただき食べる、買い物に行き路線バスに乗って帰園する、通所により得た作業工賃でお寿司を食べに行く、意思伝達装置を練習するなど、活動内容は多岐にわたります。皆さんの「やりたい」思いを叶えるこの取組みが、新たな可能性へのチャレンジに繋がることを期待しています。

